

日本・OECD共同イニシアチブ
プロジェクトの取組報告
国際協働プロジェクト学習の取り組み
-OECD日本イノベーション教育ネットワークの挑戦-

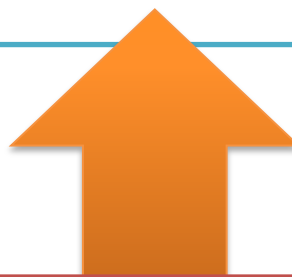


秋田喜代美
ISN研究総括
(東京大学大学院教育学研究科)

はじめに：私たちの問い

21世紀の世界で必要なコンピテンシー(資質・能力)とは何か？
必要な資質能力を育むためには、どのような学習モデルが
効果的か？
その中で育成された能力は、どのように評価できるのか？

社会に開かれた
教育課程



課題設定・協働探究

地域の中で学び、地域を愛し、地域を創生する
主体的な市民を育てる教育とは？(中等教育)
一つの地球に共に生きるグローバル人材の育成と
は？

内容

1

- OECD日本イノベーション教育ネットワークの成立の経緯

2

- 国際協働プロジェクト学習の取り組み

3

- 地方創生イノベーションスクールの成果
生徒たちの声 教師の声

1 OECD日本イノベーション教育 ネットワークの成立の経緯

1-1 OECD東北スクール 2012-2014

1-2 地方創生イノベーションスクール2030

I 期 2015-2017

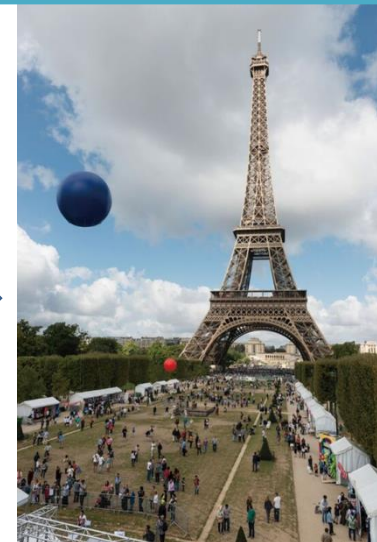
(地方創生イノベーションスクール2030)

II 期 2018-2020



1-1. 出発は、OECD東北スクール 2012-2014 2年半

震災・復興にとどまらない、新しい教育の未来を生徒自らが考える 人材育成
東北地方の経済活性化に必要な持久力を養うための教育イノベーション
長期、国際協働、地方創成のプロジェクト学習



2012 8地域100人

2014 15万人

1-2 地方創生イノベーションスクール2030 I期 全国へ 国際協働“プロジェクト学習”による人材育成モデル

目指す人材像

新しい地域・国・世界を創るイノベーター

E2030と協働し資質能力を検討

カリキュラム

イノベーションを創造する力
世界・国・地域の課題を解決する力

プロジェクト学習
テーマ

OECD諸国共有の課題と地域の将来(2030年)を考える

Go Global
グローバル
社会を考える

Think Green
環境を考える

Skills Change
スキルが変革する
社会を考える

自らの地域から クラス
ター

6クラスター体制でのPBL活動

OECD 日本イノベーション教育ネットワーク

(正式名称：Japan Innovative Schools Network supported by OECD)

事務局：東京大学公共政策大学院人材政策研究ユニット内

Think-tank

国際協働による調査研究・分析

Do-tank

教育研究と先端的な実践の連携

地方創生イノベーションスクール2030

<国際協働型プロジェクト学習>の実践

テーマ	原発被災からの復興、環境問題、再生可能エネルギー	グローバルな視点から持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成	少子化対策・地場産業の活性化と移民	環境・エネルギー問題と地域課題の解決に向けた人材育成	高専独自の次世代型人材教育	持続可能な地域づくり
参加国・地域	東北クラスター (事務局：福島大学)	広島クラスター (事務局：広島県教委)	和歌山クラスター (事務局：日高高校)	福井クラスター (事務局：福井大学)	高専クラスター (事務局：国立高専機構)	隠岐島前クラスター (事務局：隠岐島前高校)
	ドイツ (Haar)	フィリピン アメリカ合衆国等	ドイツ (Constance) トルコ	シンガポール	東南アジア諸国	エストニア

※「ボランティアクラスター」として、東京学芸大学及び附属学校、埼玉県教育委員会等が参加

連携・協力

OECD「The Future of Education & Skills : Education 2030」project
日本・OECD共同イニシアチブ・プロジェクト

2 国際協働プロジェクト学習 の取り組み

2-1 各クラスターの実践とそこから提案された探究のためのデザイン原則

2-2 生徒イノベーション国際フォーラムと
生徒共同宣言



生徒 <広島クラスタエリアD>

地域で頑張る人を「カッテデミー賞」(勝手&アカデミー)と称して表彰・取材し、その内容をフリーペーパーやSNSを通して、発信



ラムネを一番美味しく飲む方法
尾道は天国!?
出会いは突然!
一期一会のラムネストーリー
カッテデミー賞inハワイ

記念すべき、創刊号は、
ラムネがすごい。
あなたは、
ラムネの本当の飲み方、
知っていますか?

昭和5年創業の
後藤ラムネ店の秘密。

読者プレゼント

次号は、福山でカッテデミー賞! 発行は勝手な時期に発行予定!!



Students' Innovation Fes ~高校生がつける2030年のよりよい未来~

7月29日、7月30日の2日間、広島中心部でフェスをを行います!!『高校生を世界に発信したい』『広島と世界をつなぐ』『イノベーションを起こす仲間を増やしたい』そんな思いで開催するこのフェスでは、地域の課題解決を目指すこれまで3年間活動してきた『広島創生イノベーションスクール』の集大成として私たちの活動の成果等を発表します。

7月29日
紙屋町シャレオ中央広場・広島県民文化センター
2カ所に分かれ、イベントを実施

紙屋町シャレオ中央広場 10:00~17:00
『おっ!Shareカルジョイ!』

広島県民文化センター 10:00~16:00
『つながろう広島 つなげよう未来へ 広がれ!わたしたちのイノベーション』

私たちシャレオチームでは、シャレオで様々な文化や私たちの活動などをみなが知ってもらうというテーマで『おっ!Shareカルジョイ!』という題名を付けました。お時間のある方ぜひお越しください。

世界のお菓子を販売する物販コーナーやモザイクアートの展示、スマイルリース作りコーナーなどがあります。ステージでは、神楽や世界の民族衣装のファッションショー、クイズや各エリアスクールの活動紹介があります。

人々、地元と世界などのつながりをテーマに、今まで私たちが行ってきた活動の紹介や、それを受けた体験型の企画、海外生徒との交流を行い、広島や世界の魅力、私たちの力を発信します。

これまでの活動記録をまとめた映像の上映、今まで取り組んできた活動についてのボクスターセッションなど見聞かせるものから、広島と世界に関するクイズ大会、ワークショップ、海外生徒と共に行う異文化交流などの、体験型のものまで、イベントが盛りだくさんです。

7月30日 広島国際会議場 10:00~16:00
広島フォーラム 「学びの変革」が創る「新しい未来」

広島創生イノベーションスクールは、『学びの変革』アクションプランの牽引プロジェクトとして、2015年から実施してきました。広島フォーラムは海外パートナースクールの生徒と自校生とこれまでの活動での学びを広く発信し、新しい未来に私たちの思いを宣言します。

みんなでカッテデミー賞を使って、地域を盛り上げよう!

今後、カッテデミー賞では、もっと地元地域の頑張っている人を勝手に表彰していくために、皆様からの人はずいぶん! 『勝手に賞』とさせていただきます。ぜひTwitterやfacebookで、右記にあるハッシュタグをつけて投稿してください。みんなで地域を勝手に盛り上げていきましょう!

ハッシュタグを付けて、
あなたもカッテデミー賞記者になろう!
#カッテにチェーン

【発行所/実施主体】
広島創生イノベーションスクール エリアD(福山・福山地区) チームB(福山)
広島県立尾道高等学校、尾道高等学校、尾道南高等学校(福山)尾道高等学校の3校が主催
尾道市プロジェクトチーム

【問合せ先】
カッテデミー賞 運営事務局
尾道市立尾道高等学校 尾道南高等学校 尾道南高等学校 尾道南高等学校
TEL: 0824-124847 mail: info@kattedemy.com

地域でがんばりようる人を勝手に表彰するフリーペーパー ~カッテデミー賞~
KATTEDEMY AWARD Vol.03
2017.夏号

「世界」と繋がる「地元」
特集だよ。

福山 尾道
地元
世界
広島

自由を持って帰ってください、余裕を持って帰って友達・家族とかに配ってもいいよ。



和歌山クラスタ 御坊 - 日高地域フェ ア(御博) 生徒自身が 企画計画





福井クラスター地域に開かれた探究



生徒イノベーション国際フォーラム 生徒共同宣言 2017 8月



International Student Innovation Forum 2017

National Olympics Memorial Youth Center, Tokyo
August 2-4 2017



International Student Innovation Forum 2017
Student Declaration **Our Voice in 2017**

[Preamble]

We, members of the Innovative Schools Network from 9 countries (Germany, Estonia, USA, Indonesia, Philippines, New Zealand, Singapore, Turkey and Japan) and active participants of the International Student Innovation Forum in Tokyo, Japan, August 2017, and with the support of the OECD Education 2030 project, have come together as students to reflect and exchange what we have learned through our shared journey during the past two years. During this time, each of us has connected with students from around the world who are in different classrooms, have different teachers, speak different languages, and have different learning styles; yet, we share a common concern for problems that affect us all. Our exchange partners also share the desire to reach out beyond the limits of our own familiar world to collaborate in thinking and to act on it. We also reflected with other peers from around the world who, unlike us, do not benefit from similar learning opportunities or who still do not have their voices heard.

In the midst of all this, we have decided to stand together and learn from one another so we can build better lives for ourselves and others. We created this joint declaration to affirm our belief in and our hope for a better future. We know we can make a difference in our local communities and in the world, so we are proud to make the following statement and announce it to everyone in the world:

[The World in 2030]

We will adapt to world shifts toward IT and globalization. So far, our lives have become incredibly convenient and effective thanks to rapid advances in technology. At the same time, we acknowledge that new developments in IT, such as Artificial Intelligence (AI) could severely disturb our society and empower us if they were to continue progressing beyond our reach.

Ongoing globalization has been gradually erasing borders in the world. Thus, we can now not only deepen our friendship with international fellows, but also experience borderless collaborative learning. Globalization, however, could also contribute to economic inequality, refugee crises, and the spread of conflicts and terrorism.

In fact, we, the young generation, have been struggling to keep up and live with these extremely fast changes of the current society. Therefore, many of us have concerns about the world in 2030 and beyond: we worry about being able to build a meaningful existence, about extremely developed technology, and about more regional and religious conflicts.

However, through our entire activities in Innovative Schools Network, we have acquired a fundamental belief toward 2030: no matter what trials confront us, we embrace our bright hopes to face them without being pessimistic. We will strive to make the world as follows: peace, not conflict, will prevail; every human right and human value, including freedom of speech, will be respected; every society will be eco-friendly.

9か国400名が学校や国を越えて交流し2030年の未来を対話し考える



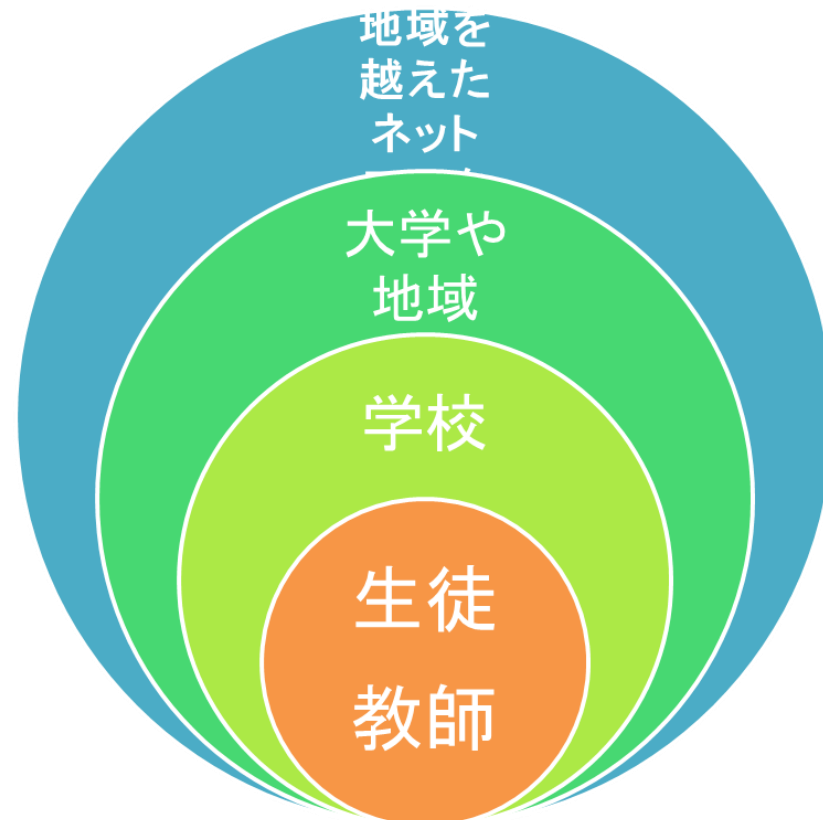
教師 中等教育段階PBL学習の指導の知恵の開発共有 (6クラスターからでサイン原則の提案、2018)

国際協働プロジェクト学習 (PBL)
ガイドライン集



OECD 日本イノベーション教育ネットワーク
Japan Innovative Schools Network supported by OECD

2018年3月



課題の発見・
設定

協働解決、さら
なる挑戦へ

隠岐・エストニアクラスター



環境設定

- 1 安心安全な場を作る 信頼関係、
- 2 喝を入れる、任せる、作業、モチベーション
- 3 教員の役割分担 伴走教師と補給教師

福井クラスター 臼井高校 プロジェクト学習スタートアップの原則

- ＜原則 1＞ 既存の枠組みを利用する
- ＜原則 2＞ 教師を多く巻き込むことを意識する
- ＜原則 3＞ 開発に集中できる環境を作る
- ＜原則 4＞ 持続可能な取組を考える
- ＜原則 5＞ 外部の人的資源を利用する
- ＜原則 6＞ アウトブットの機会を増やす

OECD E2030 IWG生徒会議への参加

IWG生徒会議(2017ポルトガル、2018パリ)への参加



IOECD IWGに参加した、和歌山とトルコの生徒と教員

Ⅱ期 Co Agencyを育む国際協働探究 ネットワークの構築

多様なネットワーク

生徒、教師、大学生、研究者、地域、専門家等、学校を越えて始まる国際ネットワーク
社会に開かれた教育課程へ
深い参画のネットワークへ



3 地方創成イノベーションスクール の成果



集中スクールでの
KPI評価の様子



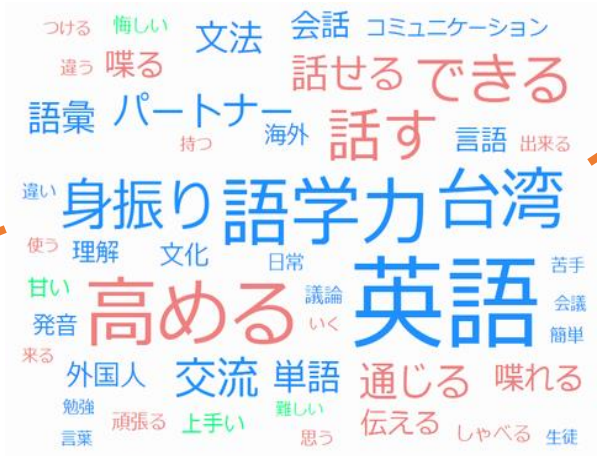
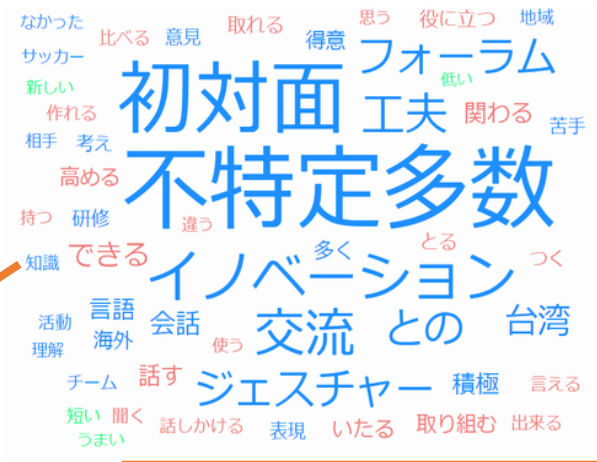
自己評価
&
ピアレビュー

東北クラスター

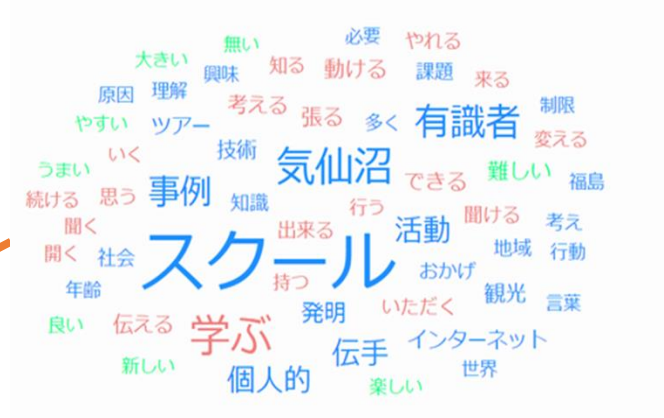
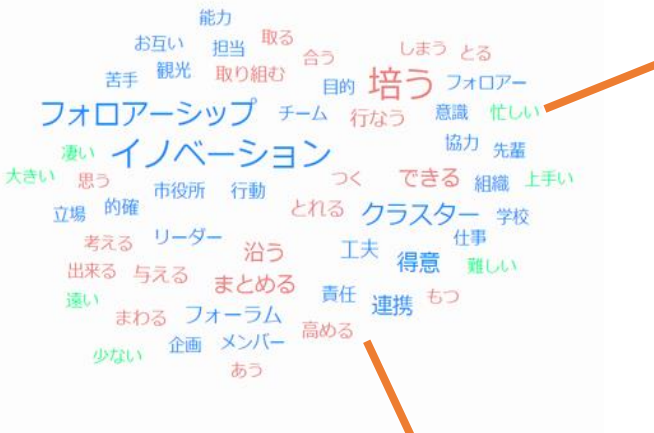
2倍以上評価が伸びた資質項目

語学力

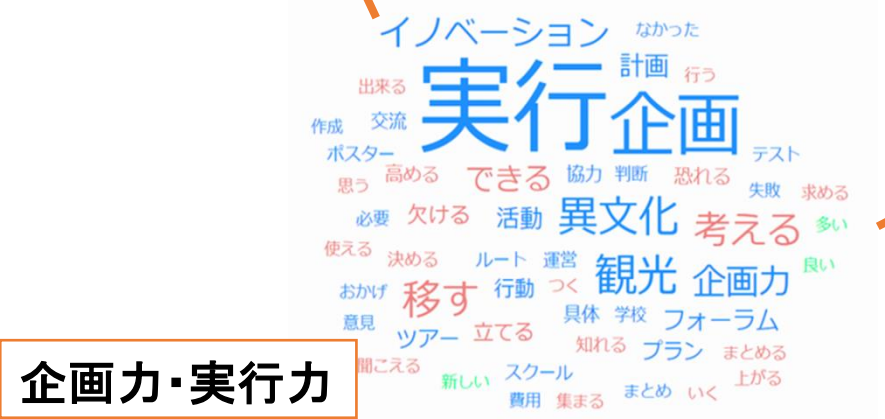
**リーダーシップ・
フォロアーシップ**



コミュニケーション



インノベーション



企画力・実行力

第2期(2018－2020)での7つの挑戦

1 生徒宣言からのスタート
2030年を見通して

2 資質としての
創造性の育成
と評価

3 Co-Agency
ネットワークの
拡張

4 PBLの指導
の知恵の共有

5 国際交流から
国際協働へ

6 評価法の
開発

7 デジタル
プラットフォーム
の展開

まとめにかえて 生徒自身が語るISNの学び

佐藤 勇樹：福島大学行政政策学類 1年

（ISN東北クラスター（ふたば未来学園高等学校）出身）

大榎 もも：国際基督教大学教養学部1年（ISN和歌山クラスター（田辺高等学校）出身）

